

畜産廃棄物の資源化を実現する 排水処理不要型30倍濃縮液肥システム

代表機関：Biosty株式会社

共同研究機関：国立大学法人九州大学

実施年度：2026年度～2027年度（フェーズ2）

キーワード：濃縮バイオ液肥、消臭、有機物循環

研究代表者：矢部光保



畜産排水を原料として、高濃度液肥と消臭資材を同時に生産する循環型資源化システムを開発する。排水処理負荷の低減と地域資源循環の実現を目指し、畜産業と農業をつなぐ新たな社会インフラを構築するとともに、化学肥料依存の低減や環境負荷の軽減に貢献する。

背景・目的

畜産排水処理と臭気対策の課題

畜産排水処理や畜舎臭気対策は畜産経営上の大きな課題であり、特に臭気は周辺住民からの苦情につながる地域課題となっている。また、化学肥料価格の高騰や資源価格の上昇を背景に、畜産由来資源の有効利用と持続可能な地域循環型社会の構築が求められている。

目標

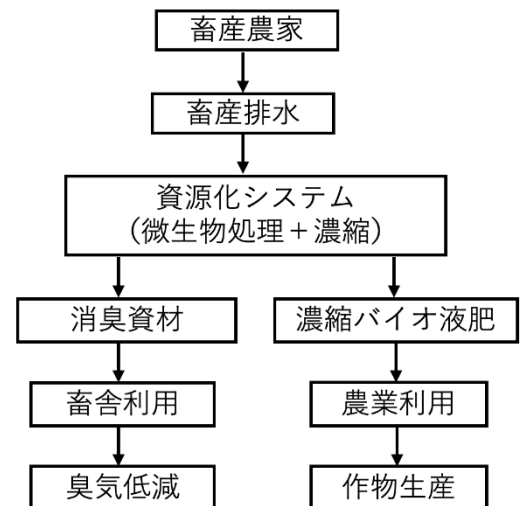
畜産排水の資源化と地域循環の実現

畜産排水から高品質な濃縮液肥と消臭資材を安定的に生産する技術を確認し、排水処理負担の軽減と畜舎臭気の低減を図る。あわせて、畜産由来資源を地域内で循環利用する持続可能な事業モデルの構築を目指す。

研究内容

濃縮液肥・消臭資材製造システムの開発

- ・畜産排水を原料として、消臭資材と濃縮液肥を同時に生産する資源化システムを開発する。
- ・微生物を活用した処理技術により、畜舎臭気の低減と資源の有効利用を図る。
- ・好気性発酵・濃縮技術を組み合わせ、高品質で利用しやすい液肥の製造技術を確認する。
- ・農業および畜産現場で実証試験を行い、実用化に向けた運用方法や利用効果を評価する。
- ・地域内で資源が循環する持続可能な農業・畜産システムの構築を目指す。



畜産排水→消臭資材＋濃縮液肥→地域循環

<代表機関概要> Biosty 株式会社

■所在地：福岡市西区九大新町4-1

■連絡先：yabe[アット]agr.kyushu-u.ac.jp

[アット]を@に置き換えてください。

BIOSTY

令和8年6月17日時点